

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 国語科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村学力調査の問題内容では、「話の内容を聞き取る」の目標値 63.3%に対して、校内正答率 55.6%だった。 ・村学力調査の問題内容では、「説明的な文章の内容を読み取る」の目標値 56.7%に対して、校内正答率が 44.4%だった。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話の内容を聞き取る」については、令和2年度に当該の授業改善推進プランが策定されていない。 ・「説明的な文章の内容を読み取る」については、令和2年度に当該の授業改善推進プランが策定されていない。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話の内容を聞き取る」では、話の内容を聞き取り、解答を記述する活動を計画的に行っている。 ・「説明的な文章の内容を読み取る」では、新聞記事を活用して意見文を書いたり交流したりしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black;"> <p><方策></p> <p>①論理の展開に注意して、話し手の考えを聞き取る活動を計画的に行う。</p> <p>②計画的に文章を書く学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①村学力調査の調査結果で、「話の内容を聞き取る」の「論理の展開に注意して、話し手の考えを聞いている」の問題項目と、「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の調査結果で、「文章を書く」の「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を解釈している」の問題項目と「文章の構成や論理の展開について考えている」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①論理の展開に注意して、話し手の考えを聞き取る活動を計画的に行う。</p> <p>②計画的に文章を書く学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①村学力調査の調査結果で、「話の内容を聞き取る」の「論理の展開に注意して、話し手の考えを聞いている」の問題項目と、「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の調査結果で、「文章を書く」の「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を解釈している」の問題項目と「文章の構成や論理の展開について考えている」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p>
<p><方策></p> <p>①論理の展開に注意して、話し手の考えを聞き取る活動を計画的に行う。</p> <p>②計画的に文章を書く学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①村学力調査の調査結果で、「話の内容を聞き取る」の「論理の展開に注意して、話し手の考えを聞いている」の問題項目と、「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の調査結果で、「文章を書く」の「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を解釈している」の問題項目と「文章の構成や論理の展開について考えている」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>2学期の授業評価アンケートにおいて、66%の生徒が「文章を書く」ことに前向きな意見を記述し、意欲を高めていた。</p> <p><課題></p> <p>「話の内容を聞き取る」ことについて、生徒の関心を高めることに課題が残った。</p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話の内容を聞き取る」ことについて、論理の展開に着目した授業を実践する。 ・「文章を書く」ことについて、目的に応じて複数の情報を整理する授業を実践する。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話の内容を聞き取ること」や「文章を書く」ことの意欲が、らせん的に学力向上に結び付く生徒。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 社会科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>知識を活用して、思考・判断・表現する力が不足している領域がある。</p> <p>例 地理科「地域調査の手法」 この領域における問いに対する正答率は0%であった。 (令和4年度 小笠原村学力調査の結果 参照)</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】①基礎的・基本的知識の定着 ②文章読解力の向上</p> <p>⇒ 上記2点については、現段階で以下のアンケート結果から改善できていると判断する。 令和4年度本校教科アンケート「この教科の学習内容について、現在のどの程度理解をしていますか」 「A あてはまる B だいたいあてはまる」100% (3名中 3名)</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>上記アンケート結果から『十分わかっている』と仮定し、知識を活用した思考・判断・表現力の向上を図る工夫を記す。</p> <p>①単元毎に必ず、思考・判断・表現力を必要とするパフォーマンス課題を設定する。 (この課題テーマがそのまま『単元を貫く問い』となり、毎授業における知識獲得の価値付けとなっていく)</p> <p>②上記パフォーマンス課題において、他教科との統合・総合を図るテーマを設定する。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①上記 2 (2) ①・②に記した工夫の継続</p> <p>②後期授業評価アンケートの実施</p>	<p><検証方法></p> <p>①②に共通して</p> <p>・後期授業評価アンケートの結果分析 (特に、他教科との統合・総合についての項目で、 A【あてはまる】 100%を目指す)</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>・基本知識を活用した、思考・判断・表現力の向上。 (上記パフォーマンス課題における取組において、思考力の上昇が見られた。)</p> <p><課題></p> <p>・社会的事象を用いた思考力、表現力。</p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>・基本知識を活用した、思考力・判断力・表現力の向上。 これからの社会の形成者としての資質向上。 (それに伴う授業者の創意工夫)</p>
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>・社会科を学ぶ意義・意味の理解度が上昇し、学ぶ意欲が向上している姿。また、これからの国際社会の形成者として参画しようとする姿勢。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 数学科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での既習内容の計算ミス（小数，分数など） ・中学1年生での既習内容の計算ミス（負の数での符号，移項の際の符号など） 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百分率，割合や分数など基礎基本的な知識の定着 ・基礎基本的な知識や技能を活用し，表現をする力 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「展開・因数分解」の単元において，記述しながらの演習の前にクイズ形式での理解を促す計算トレーニング。 ・「2次方程式の単元」において，ホワイトボードを使用した教え合い活動。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き，間違えたことを隠さず確認していく主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ，クラスメイトに共有することで深く理解する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施前と後に行い，定着度を確認する。 <p>②ホワイトボードを用いた発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き，間違えたことを隠さず確認していく主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ，クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施前と後に行い，定着度を確認する。 <p>②ホワイトボードを用いた発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。
<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き，間違えたことを隠さず確認していく主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ，クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施前と後に行い，定着度を確認する。 <p>②ホワイトボードを用いた発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組み，学習に向かう姿勢はよりよくなった。また基礎基本を活かし，応用問題にも意欲的に取り組んでいた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用問題に取り組む際に，問題の意図を理解できずに正答を得られない場合がある。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に振り返りの授業や問題演習を行う。 ・本時の内容につながる既習内容の振り返りを適宜行う。 ・基礎的な内容の定着だけでなく，数学的な論理思考の向上，確認のため，生徒による解説・説明・発表を授業で行っていく。 ・応用的な問題の演習を増やし，問題の意図を理解する練習を行う。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組み，思考・判断・表現を必要とする問題に取り組み，またそれを級友と教え合えることができる生徒。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 理科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和4年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。

- ・「化学変化」の校内平均正答率が44.4%であり、目標値48.3%よりも低い。また、「化学変化と物質の質量」の校内平均正答率が66.7%であり、目標値72.5%および全国平均73.4%よりも低い。化学変化に関する基礎的・基本的な知識及び技能が課題である。
- ・「電流と磁界」の校内平均正答率が33.3%であり、目標値43.3%および全国平均38.6%よりも低い。また、「電流の性質」の(3)の校内平均正答率が0.0%であり、目標値40.0%および全国平均10.2%よりも低い。電流、電力量などをグラフから値を読み取りながら導出する問いに課題がある。
- ・会話文やまとめられた図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】①基礎的な用語、観察・実験の技能の習得②「生命・地球」領域の知識の定着

【課題に対する具体的な授業改善策】①小テストや実技テストを実施し、用語や技能を身に付けさせる。それに向けた授業の復習を家庭で取り組めるように指導する。②実物の観察や自然現象の映像資料をもとに、自然現象についての知識・理解を向上させる。

【評価】①小テスト、実技テスト等により、基礎的な用語、技能を身に付けようとする姿勢が見られた。②観察、映像資料をもとに、自然現象の知識を深められた。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・内容のまとめりに、会話文から題意を読み取り、図・表・グラフなども活用するタイプの問題演習を行い、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する場面を設ける。
- ・文章で表現させるときは、キーワードを示すなどの支援を個に応じて行い、自分で表現することをまとめられる場面を設ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①内容のまとめりに、会話文から題意を読み取り、図・表・グラフなども活用するタイプの問題演習を行い、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する場面を設ける。
- ②内容のまとめりに、本時の授業のまとめや、問いに対する説明を記入させる時間を設ける。

<検証方法>

- ①内容のまとめりに、会話文から題意を読み取り、図・表・グラフなども活用するタイプの問題演習を行う。教科書、市販の教材を用い、正答率の芳しくない問いに対するフィードバックを行う。年15回程度。
- ②授業のまとめの時間に、タブレットPCでまとめや授業中に浮かんだ疑問等を入力する。既習の用語で学んだことを説明できるように、適宜キーワードを示すなど支援し、自分で説明することに慣れさせる。通年で実施し、章や単元ごとにフィードバックし、学習を調整できる機会をつくる。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・分かったことを端的に、科学的用語を用いて表現できる生徒が増えた。
- ・授業で学んだことを日常生活の現象などに結び付けながら説明する場面が見られた。

<課題>

- ・問題演習において、会話文、図、表、グラフの情報のうち、鍵となる部分が見えず、題意を読み取ることが困難である。また、計算問題や化学反応式になると、手が止まる場面が見られた。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・個別に、計算問題や化学反応式を支援する。
- ・基本的な用語の確認を継続的に行う。
- ・問題演習時に、読み取るポイントを伝え、数値や実験の結果など、大切な箇所の下線を引かせて、情報を抽出、整理する。式など、思考の過程を残す。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿

- ・「基礎的な知識」を活用し、文章量のある問題でポイントを押さえながら、式などに思考の過程を整理しながら表現することができる生徒の姿。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 音楽科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和4年度、前期の授業評価アンケートを集計し、教科を通して興味・関心を高められているという項目において、Aは67%、Bは33%であった。そして、この教科についてどの程度理解しているかという項目において、Aは33%、Bは67%と、この2項目は令和2年度を振り返ってみても同じような結果であった。興味はあるが、「理解」となると音楽用語、楽曲が作られた背景等、覚えなくてはいけないものとして考えているので音楽に対するハードルが高くなっている。授業で発言し、ワークシートに記入できていたことを、今度は定期考査で同じような出題をしてみると、難しくとらえてしまうところがあり、「理解していなかった」と消極的になり、「わかる」から遠ざかってしまうことが課題である。また、コロナ関連でそれまで関心が高かった「歌唱」は表現する機会が減ってしまい、現在「どのように歌えばいいのかわからない、忘れてしまった。」という不安をもつ生徒もおり、徐々に歌唱する機会を増やし不安を取り除くことも課題の1つである。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

①基礎的な演奏表現の習得→姿勢及び呼吸指導を中心に、個々の演奏課題に応じた指導を行う。

演奏姿勢を図で示す。

②読譜能力の向上 →楽譜から読み解く鑑賞や、創作したものを記譜する活動を充実させる。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

①導入として毎時間5分程度の、既習曲の歌唱の取り組みを行っている。その際、姿勢や、楽譜を見て歌詞の内容や強弱がどのように関係しているかなどを意識させる取組を行っている。

②読譜能力の向上として創作活動を行う。まずは、階名だけで創作した旋律を五線譜に記譜させる。

今年度はさらに ICT 機器を使い創作活動を行う。作った旋律を、創作アプリに打ち込み、再生させる。

打ち込みには、楽譜が読めなくても分かりやすいようにマス目が区切られており、階名も色で識別されているため視覚で分かるようになっている。このアプリを使い、音楽を形作っている要素であるリズムや（音の時間的なまとまり）から基礎的な音楽用語を理解することにつなげていく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

①年間2回の授業アンケートの実施

②年間3回の定期考査の実施

<検証方法>

①年間2回の授業アンケートの内容分析

②年間3回の定期考査を実施した内容の分析

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・創作活動では、ICTを活用し音源をつくり、自作の旋律を音符や休符の長さを考えながら、五線譜に記譜することができた。
- ・歌唱分野では姿勢や発声を意識した歌唱をすることができた。

<課題>

- ・歌唱分野は、姿勢や発声を意識しているが、歌詞の意味やそれに伴う強弱について、意識が薄くなってしまう。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・歌唱分野については、歌詞の内容を考え、「なぜ、その速度・強弱なのか」ということを考え、作詞者・作曲者の視点をもたせ、表現活動に活かす。
- ・他教科との関わりに興味をもち、様々な視点から音楽を捉え、社会と音楽との関わりの面白さを味わう。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿

- ・自己実現に向け、様々な教科と比較したり、これまでに培ってきた知識を生かしたりしながら、音楽を豊かに表現する生徒。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 美術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和4年度前期授業評価アンケートでは、「美術科の学習を通して、この教科への興味・関心を高めることができるか」という項目に関して、100%が「あてはまる」、それ以下該当なしである。また、「この教科の学習内容について、現在どの程度、理解していますか」という項目に関しては、33%が「100～75%」、67%が「75～50%」、それ以下該当なしである。以上の結果のみならず、授業への興味・関心は高い（ここ3年間の結果より）が、学習内容の確実な定着については伸びしろがあり、課題がみられると思われる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・【課題】①〔共通事項〕知識の定着。②より自由に表現し、互いの作品を造形的な視点で鑑賞できる態度。
- 【改善策】①小学校図画工作科での造形遊びを理論付け、整理し、主題を生み出すための技法や知識を〔共通事項〕を踏まえて実感的に理解させる。②美術館との連携授業を通して、作品の多様な価値を実感的に理解させる。
- 【評価】①②〔共通事項〕をより定着させることで、造形的な視点を深め、イメージを捉える力が高まり、美術館との連携授業では、主体的に鑑賞に取り組むことができた。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・思考・判断・表現に関する出題において、主題の生成や客観的に作品を批評する見方や考え方（美術科の場合は、感じ方）を定着させていく。
- ・美術科の学習におけるメタ認知能力を高めるために、パフォーマンス課題に取り組みさせることで、主体的な学びを深められるようにしていく。
- ・アナログの造形日記による振り返りとデジタルのタブレット端末を活用したポートフォリオの作成等をハイブリット化し、造形的な視点による創造性の涵養を図る。教師にとっては、生徒の学習の軌跡をデータ化し、評価評定に活かし、指導と評価の一体化及び授業改善に役立てる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施
- ②年間3回の定期考査の実施

<検証方法>

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析
- ②年間3回の定期考査の実施内容の分析

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・3年間の系統的な学習の成果が、定期考査や振り返り、作品などに表れた。生徒と指導者の学習の振り返りや目指す姿が一致したことにより、高次の数値や成果がみられるようになった。

<課題>

- ・引き続き、教科担任が意図的、計画的に3年間の系統的な柔軟な学習カリキュラムの編成及び実施が望まれる。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・3年間の系統的な学習として位置付けた2学期初めの「造形実験」の題材により、表現及び鑑賞の資質・能力が相互に高まり、2学期末から3学期の「卒業制作」へとつなげることができた。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿

- ・生徒が創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性をさらに尊重する態度の形成。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 保健体育科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果より、教科の関心を高められていると感じている生徒が100%おり、内容についても理解している、おおよそ理解していると感じている生徒数を合わせると100%いる。授業に意欲的に取り組み、力を伸ばすことができている。卒業後を見据えて、健康な生活を送るための基礎として、運動に親しみ、継続的に取り組むことのできる資質・能力を育成していくことが課題として挙げられる。 ・新体力テストの結果より、特に全身持久力とスピードに課題が見られた。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】①基本的な運動技能の習得と体力の向上、②課題の解決に向けて、思考・判断し、他者に伝える力の育成</p> <p>【改善策】①各種目の特性に応じた技能と必要な体力を押さえ、スモールステップで課題を提示し、運動に取り組ませる。②学習カードやICT機器を活用し、視覚的にわかりやすいようにするとともに、仲間と意見を交換する機会を設け、理解を深めさせる。</p> <p>【評価】①段階的に指導し、基本的な運動技能を定着させることができた。②仲間と協力し、課題を解決することができた。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動を設定し、年間を通して授業の導入部分で実践している。 ・学習カードやICT機器を活用し、イメージどおりに体を動かすことができているか生徒同士で教え合っている。 ・体力の違いや技能に応じて、ルールの緩和を行い、全員がゲームに参加できるようにしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②年間3回の定期考査の実施 ③新体力テストの実施 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 ③新体力テストの結果の分析 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②年間3回の定期考査の実施 ③新体力テストの実施 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 ③新体力テストの結果の分析
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②年間3回の定期考査の実施 ③新体力テストの実施 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 ③新体力テストの結果の分析 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期授業評価アンケートの結果より、教科の関心を高められていると感じている生徒や授業内容を理解している、だいたい理解しているという生徒数を高い水準で維持することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度新体力テストの結果より、全身持久力に依然として課題がある。主体的な学びのもと、基礎的な体力の向上を継続して目指す。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業形態が中学校生活で経験したものと大きく変わるため、話し合い活動への参加や役割分担など主体的に学習に参加し、これまでの学びをさらに発展させていく必要がある。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つ以上の運動、スポーツ種目に親しみ、生涯にわたって運動を豊かに実践する資質・能力を身に付けている。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 技術科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。 ・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、技能の観点で差が出てくる生徒がいる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>①ICT 機器を活用して前時と本時の学習内容を短時間で確認する。</p> <p>②反復学習や振り返りができるように、毎授業ごとに自己評価シートを書き込む。</p> <p>上記の活動を定着させることで、学習内容を系統立てて取り組むことができた。また、「できたこと」を中心に書き込み、自己肯定感が高まり、学習意欲が態度に表れるようになった。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリント教材を用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。 ・作業に遅れがある生徒には、コンピュータの操作方法を実演・助言を行い、進度をそろえる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black;"> <p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるようにワークシートに記入させ、適切なアドバイスを行う。</p> <p>②プリントやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるようにワークシートに記入させ、適切なアドバイスを行う。</p> <p>②プリントやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>
<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるようにワークシートに記入させ、適切なアドバイスを行う。</p> <p>②プリントやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果より、生徒からの意見に、生活の問題を解決するための能力を高めたいとする記述が多く、資質能力の高まりがうかがえる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着に困難を感じている生徒が多い。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や思考の過程を容易に振り返ることや、根拠をもって思考することができるよう、ICT 機器を活用する。 ・他者と自らの思考を比較し、よりよい結果を得られるよう調整できるようになることを目指して、技術の評価や適切な選択などの主体的な意思決定を促す。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、課題を解決する力の形成。また、よりよい生活の実現や社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度の形成。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 家庭科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を、自身の生活と結び付けて考えることが求められる。 ・題材に関してのイメージがもちにくく、実生活と結び付けて考えることが難しい。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を他の題材と関連させながら確認する。また ICT を活用して、写真や動画を提示し、理解を深めさせる。 ・保育実習の課題を設定し、既習事項と関連させて取り組ませる。 <p>〈評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の題材の知識と関連付けることで、幼児生活の知識を深めることができた。 ・課題をもって実習に取り組むことで幼児との関わり方を工夫することができるようになった。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業の復習として、授業の初めにスライド資料にまとめ、モニターに提示し、知識の定着を図る。 ・題材の導入やまとめなどには動画を活用し、具体的なイメージをもたせる。 ・お互いの考えや意見を共有する時間を確保し、視野を広げる。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>〈方策〉</p> <p>①自身の生活と結び付けて考えられるように、身近な題材を扱いながらワークシートに記入させ、生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。</p> <p>②幼児に関する題材では、実生活と結び付けて考えられない生徒も少なくないため、実習や動画、資料を活用して考えを深めさせる。</p>	<p>〈検証方法〉</p> <p>①課題、定期考査、授業評価アンケート</p> <p>②課題、定期考査、授業評価アンケート</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習や様々な資料を通して、幼児に関する題材に関して自身の生活と結び付けながら今後に生かしたいと表現する姿が見られた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を応用した問題や活用して課題を解決することが難しい。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活と関連させ、実践的で体験的な学習の時間を確保し、自身で課題を解決できるような授業を展開する。 ・既習事項を再度確認し、知識を生活と結び付けながら理解を深めていく。
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識を活用しながら、自身の考えを深め、生活をよりよくしようという意識を高めた生徒。 	

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 英語科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>・令和4年度村学力調査では、前年度課題が見られた「語形・語法の知識・理解」の正答率が41%から66%へと改善が見られた。一方で、「長文の読み取り」において正答率25%、「場面に応じて書く英作文」において正答率16%と、全国平均を大きく下回っている。このことから、「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取る」力（『学習指導要領』2-1(2)ア）および「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書く」力（同2-1(5)ア）に課題がみられると考えられる。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>・【改善策】学習のねらいを明確にした上で、新出単語・新出文法を、ワーク等を活用し、繰り返し練習させる。 【評価】単語や文法事項を繰り返し練習させることができた。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>・『学習指導要領』2-1(2)アおよび2-1(5)アの力を伸ばすために必要な語句について、授業内で生徒用タブレット内のデジタル教科書を活用した個別学習や、互いに問題を出し合うペア活動、家庭学習での反復練習など、複数の方法で学ぶ機会を設ける。</p> <p>・生徒とのやり取りを通して文章を読む目的を示した上で、文章の読み取りを行うための個別学習の時間を設ける。</p> <p>・聞いたり読んだりしたことをもとに、相手に合った提案を書くなど、技能統合的な活動を取り入れる。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p><方策></p> <p>①学習した語句を確実に身に付けられるよう、教科書1セクションごとに小テストを行う。</p> <p>②表現活動を行う前に、既習の語句や文法のうち、活用できそうなものを全体で確認する。</p> </td> <td style="width: 50%; padding-left: 10px;"> <p><検証方法></p> <p>①1セクションごとの小テスト</p> <p>②各単元末の作文、年4回の定期考査</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①学習した語句を確実に身に付けられるよう、教科書1セクションごとに小テストを行う。</p> <p>②表現活動を行う前に、既習の語句や文法のうち、活用できそうなものを全体で確認する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①1セクションごとの小テスト</p> <p>②各単元末の作文、年4回の定期考査</p>
<p><方策></p> <p>①学習した語句を確実に身に付けられるよう、教科書1セクションごとに小テストを行う。</p> <p>②表現活動を行う前に、既習の語句や文法のうち、活用できそうなものを全体で確認する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①1セクションごとの小テスト</p> <p>②各単元末の作文、年4回の定期考査</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①小テストを通して、日々の学習への意識付けができた。</p> <p>②全体指導で確認した表現を適切に活用して活動を行うことができた。</p> <p><課題></p> <p>①小テストで正答できた語句でも、「読むこと」や「書くこと」の活動でうまく活用できない場面も見られた。</p> <p>②毎回の活動で同一表現や類似表現を繰り返し取り上げる必要があり、定着の面で課題が見られた。</p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>・できる限り目的や場面、状況が明らかな文の中で単語を覚えさせる。</p> <p>・自己表現の活動で使用した語句を自己表現集等にまとめて、必要に応じて随時参照できるようにする。</p>		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>・日常的な話題や社会的な話題について読んだり書いたりできる生徒。</p> <p>・適切な表現を選択しながら、事実や自分の考え、気持ちなどを伝えることができる生徒。</p>			